

2022 年度会費・ご寄附のご依頼

ロシアのウクライナへの侵攻、中国国家主席の権力集中、世界の民主主義の衰退と各地でのポピュリズムの台頭、歴史が大きく展開しています。日本では円安の進行の中で経済格差がさらに拡がり、子ども・若者の生き辛さが深刻化しています。

昨年は皆さまからのご寄附・会費のお陰で、「東京都における養育支援訪問事業の改善課題に関する調査研究」～子育て経験者・ヘルパー等が行う育児・家事援助を中心に～の調査研究を実施することが出来ました。心より感謝致しております。

昨年の調査研究の目的は、家庭の中で不安と孤独に苛まれている子どもたちに、訪問支援員が育児・家事援助の関りを通して子どもたちの精神的回復と自己肯定感を育み、孤立やギャンブル・薬物等の嗜癖に陥らない人生を歩んで行くことを可能にすることです。調査研究の結果は、子どもたちの精神的回復にこの事業が寄与しているかと言えば、育児・家事による訪問支援が全く実施されていない、或いは僅かしか実施されていない自治体が多く、まだまだ不十分な状態であることが判明致しました。

さらに、養育支援訪問事業が 2024 年度からは子育て世帯訪問支援事業と名称も内容も変わり、不適切な養育下にある子どもたちにとっては増々ハードルが上がるのが予想されます（子育て世帯訪問支援事業の問題点は厚労省への要望書提出のコラム参照）。

そこで、「子育て世帯訪問支援事業（新規事業）の今後の制度設計・改善のための調査研究」～先行事業の養育支援訪問事業の課題抽出を通して～というタイトルで、新たに助成金申請（10 月末提出）をして、全国調査を実施出来ればと次のステップを考えております。

コロナや経済格差の影響で貧困家庭の増加、特にシングルマザーの貧困の増大はその子どもの生活・精神に影響を及ぼし、親の気持ちの不安定化は児童虐待とも直結して、その結果は少年事件へと繋がっていきます。大多数の親子分離しない児童虐待では、その親を支えると共に、親以外の訪問支援員が子どもの気持ちを受けとめて精神的回復に至るプロセスを育児・家事援助事業を通して実現させていきたいと強く思っております。

どうか 2022 年度も、引き続き会費・ご寄附にご協力いただきたく、重ねてお願い申し上げます。お手数ではございますが、会費等のご納入には、同封の振替用紙をご利用いただければと思います。

- ◎ 2022 年 12 月に、昨年度の調査研究を日本子ども虐待防止学会（於福岡）で発表します。
- ◆ コラム厚労省・内閣府に「子育て世帯訪問支援事業」の実施に関する緊急要望書を提出
- ◆ コラム「選挙中に凶弾に倒れた元総理の事件等から見えてくること」 を添付

2022 年 11 月

特定非営利活動法人 日本子どもソーシャルワーク協会
理事長 寺出 壽美子